

切磋琢磨

うるま市立 あげな中学校

校長 福山 真

第1回 校長講話

平成28年度の第1回目の校長講話を4月20日におこないました。テーマは、『あげな中学校すべての生徒が意欲的な進路選択ができる雰囲気づくり』でした。約65枚の写真を使い、「いいこといっぱい・あげな中」を全員で確認しました。特に、3年生は、全員の感想を読ませて、いただきました。さすが、3年生と感心する感想の内容でした。数名の生徒の感想を、下記に記載します。

生徒の感想

○1年1組 村田直斗

2・3年生は、朝の清掃やあいさつを一生懸命頑張っていたのが、カッコ良かったべく達もいい先輩になりたいです。2・3年生の学級発表はとても楽しそうでした。やっぱり中学生だな～と思いました。

○1年3組 笹木 和花

私は、トイレにはってある掲示物「見えないところこそマナーが見える」ということばがその通りだな～と思いました。なぜなら、だれにも見えないトイレだからです。なので次に「使う人のために、きれいに使う」を心がけていきたい。学校にいける雰囲気づくりは自分自身も、学校にいいけるように、頑張りたいです。

○2年1組 山下 杏珠

校長講話を聞いて、校長先生はこの短期間で、あげな中学校のことを細かく見ているなど思いました。校長講話のテーマであった『あげな中学校すべての生徒が意欲的な進路選択ができる雰囲気』にあった講話だと思います。また学校にはられている。掲示物の話もしていました私はこれまであまり掲示物をみていなかののでこれからは、こまめに見て学校生活に役立てるように頑張ります。これから意欲的な進路選択が持てるように頑張ります。

○2年2組 新城 千佳

私は、「雰囲気」というのはとても大切なことだと思います。何事も「雰囲気」を作ってからだと物事が進みやすくなります。だから全員が「意欲的な進路選択できる雰囲気をつくらなければいけない」と思います。私は、進路は、はっきりと決めていません。なんとなく「あの高校に行きたいな・・・」という気持ちはあります。あげな中学生全員が意欲的な進路選択ができるようになればいいなと思います。そのためにもその雰囲気を作っていくように私も協力していきたいです。

○3年3組 立本 莉乃

今日の校長先生の話で、テーマを聞いて『意欲的な進路選択が雰囲気』を聞いて私は、「うんうん」となっとくしました。私は、行きたい高校ではなく「いける高校」とかんがえていたからです。「意欲的な進路選択」というのはいまの私たちにとって大切なキーワードかもしれないと思いました。

○3年6組 宮里 築

校長講話を聞いて、私は今年受験生として、自覚を持ち真剣に考えていこうと思いました。自分の志望校にしっかり余裕をもって合格できるように、授業中と休み時間のケジメをつけテストでも常に〇〇番以内にはいっておけるように頑張りたいです。また、部活動では最後の中体連が6月にひかえひかえています。私たちバスケット部は、県大会優勝連続優勝し、九州大会に派遣されるようがんばっていききたいです。また、北ブロック大会では、優勝旗を取り戻せるよう頑張ります。今日の校長先生の話はためにな話でした。ありがとうございました。

○3年7組 大石根 優衣

今日の校長講話を聞いて、自分のいきたい高校に行くためには、それまでの準備が大切だと思いが付きました。普段からしっかり勉強しておけば、受験の時にそれが生かされるのだと思います。また学校全体もいい雰囲気になれば一人一人の成績もよくなるのかなと思いました。

「近すぎて見えない」

名古屋から子供を連れ、上野動物園に行った時のこと。

帰り道、名古屋に向かう新幹線の中で、疲れきった私の家族はバラバラに席に着き、グッタリ座っていた。

その日はちょうどゴールデンウィーク真っ只中。新幹線自由席も混んでいた。

新横浜に到着するとさらに車内は混み合い、何人かの立ち客で車内はいっぱいになった。

ひかりなので次の名古屋までは2時間近くある。
立っている人には辛い時間だ。

そんな中、立っている乗客に、一人のおばあちゃんがいることを発見した。
年齢は70～80歳くらい。

気にはなっていたが私の席からは遠く、すぐに声がかけられない位置。

近くの人が誰か替わってあげたらいいのに、
と他人ごとのように思いつつ、そのまま私も座っていた。

すると私の妻が大きな声で、「おばあさん、この席よかったらどうぞ」

と言って、遠くから声をかけた。おばあさんは妻にお礼を言い、席についた。

やがて名古屋に到着。
私たち家族はそこで降りたわけだが、そこで私は妻に聞いた。

「あんな離れた場所からよく声をかけて、席を替わってあげられたね。

ぼくも気づいていたけど、少し恥ずかしかったのと、
近くのだれかが替わってあげればいいのと思うだけで、なにもできなかったよ。

「恥ずかしくなかった？」と聞いた。それを聞いた妻は

「あなたはあのおばあちゃんが、自分のおかあさんだったらどうしていた？
近くじゃなかったから声もかけず、席も替わらなかった？」

そして、

「きっとどこかで、あなたのおとうさんやおかあさんも同じようにだれかに助けられているのよ」と言った。

私は目からウロコが落ちたと同時に、
自分のふがいなさ、修行の足りなさに情けなくなった。

だれでも自分の子供、自分の親は大切にしたいもの。
でもそれは誰でも同じ。

何年前のCMで「人類みな兄弟」とあったが、
この言葉が自分の中に、ぐっとしみこんでゆくのを感じた。

人生の師は近すぎて見えなかったようだ。
私のまわりは全て大切な人なんだ。